

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-163	高等学校	外国語	コミュニケーション 英語 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
9 開隆堂	コ I 331	Revised ENGLISH NOW English Communication I		

1. 編修の趣旨及び留意点

本教科書は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」という学習指導要領外国語科の目標を基盤に、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う」を大前提にして編修した。特に中学校における学習との関連性を重視して、円滑な接続を実現するべく、言語材料、言語活動、題材内容を易から難へ段階的に配列して学習内容の定着を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を育成することに意を注いだ。このことを実現するために、各課に4技能をバランスよく配するとともに、本文に対応した英問英答で理解を確かめながら学習を進めることで授業の中で英語による言語活動が行いやすくなるよう配慮し、教科の目標を達成できるように工夫して編修した。

2. 編修の基本方針

(1) 学習活動からコミュニケーション活動への滑らかな移行

教材の構成は基本的には文法シラバスとしているが、4技能を有機的に関連付けて総合的に育成することが求められていることに対応して、文法にからめる場面と機能表現を効果的に配置し、教材としての適切性に配慮して、生徒に身近な題材、易しく取り組みやすい言語活動を数多く配置して、生徒の意欲的な発話につなげることを重視した。各活動はコミュニケーションの必然性や妥当性を考慮し、平易な英語の知識や技能を身につけられるよう配慮した。また、言語の使用場面を意識した活動を行うための独立したページを各見開きで3箇所設けた。

(2) 中学校における学習との円滑な接続

高等学校学習指導要領外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」の「3 内容の取扱い」に示されているように、中学校や高等学校における学習内容を繰り返し学習し、定着が図れるよう特段の意を用いた。具体的には、Let's Start及び中学校の復習、Lesson 1～Lesson 8までは中学校で学習する平易な文構造・文法事項を中心に扱い、Lesson 9以降で高校での学習事項を取り扱うことで、生徒が中学校や高等学校における学習内容を無理なく学習し、定着を図ることができるよう配慮した。また、できるだけ自然で平易な語彙・表現と構文を用い、生徒の学習負担を軽減するよう特段留意した。

(3) 学習意欲を喚起する、生徒にとって身近な題材

生徒が日常使用するEメール（ショートメッセージ）、健康によいおやつ、学校生活での先輩と後輩の関係、高校生が運営するレストランなど、高校生が日常身近に触れる興味深い題材を配置し、学習意欲を喚起することで、英語の学習が楽しく進められるようにした。また、これらの題材を通して語学学習だけにとどまらず、教科横断的な学習ができるよう配慮した。

3. 対照表

本教科書は教育基本法、学校教育法の精神に則って編修したが、以下に特に教育基本法第2条（教育の目標）に典型的に対応する部分を示す。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所 (ページ番号)
教科書全体の 題材の配列・構成	題材の提示において、幅広い知識と教養を身につけられるように、広く世界各地の風物、文化、言語などに関する理解ができることを目指した（第1号）。	全課
教科書全体の活動	全課の課末において、ペアワークやグループワークを数多く設定することによって、お互いの意見の異同を確認し、尊重する態度を養うことを目指した。このことによって、個人・集団としての正義と責任、自他の敬愛と協力の精神などが養成されるように努力した（第3号）。	全課
Lesson 1 “Hello, Everyone.”	自己紹介を通して自分のことを英語で表現し、英語で自己表現できる喜びを得ることによって自己肯定感を養う（第2号）。同時に他者の表現を尊重する態度を養う（第3号）。	pp.16-21
Lesson 2 Text Messages	日本語と英語のショートメッセージや顔文字に見られる違いを通して、表情の捉え方の違いなどの文化の違いを知る。また、英語でメールを書く活動を通して、国際社会に発信する態度を養う（第5号）。	pp.22-29

Lesson 3 What Are Good Snacks?	健康によいおやつは何か、また、なぜそのおやつがよいのかを知ることで、幅広い知識と教養を身につけ、健やかな身体を養えることを目指した（第1号）。	pp.34-41
Lesson 4 A Friendly Hug	日本とアメリカのあいさつのしかたを比較することで、異文化相互理解をし、国際社会に発信できるよう配慮した（第5号）。	pp.42-49
Lesson 5 <i>Kawaii</i>	日本の文化が世界に広まり、称賛されている事実を知り、我が国の伝統と文化のよさを見直すことができるよう配慮した（第5号）。	pp.52-59
Lesson 6 <i>Sempai and Kohai</i>	年上の人に対して「先輩」ということばを使う日本文化と年上でも名前呼び合う英語圏の文化との違いを知ることで、異文化相互理解ができるように配慮した（第5号）。 また、「先輩」「後輩」ということばの使い方を通して、他者を敬愛し、協力を重んずる態度を養うことを目指した（第3号）。	pp.60-67
Reading 1 The Cracked Pot	完全ではない、ひび割れたつぼであっても何かの役に立っているという物語を通して、個人の価値を尊重し、その能力を伸ばす態度を養うことを目指した（第2号）。	pp.72-77
Lesson 7 Mago-no-Mise	学習する生徒と同年代の高校生が地域社会で活躍している様子を描いた題材を通して、職業及び生活との関連、勤労の大切さを伝えることを目指した（第2号）。	pp.78-85
Lesson 8 Marathon of Hope	がんにかかり片脚を切断することになった青年が、他人のために命をかけて走り続けた実話を通して、生命を尊び、希望を持ち続ける態度を養うことを目指した（第4号）。	pp.88-95
Lesson 9 <i>Mottainai</i>	環境の保全・保護に関する題材を通して、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第4号）。 同時に、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に寄与し、その発展に寄与する態度を養うことも目指した（第3号）。 さらに、日本の「もったいない」ということばを世界に広めた人物について知ることで、国際社会の発展に寄与する態度も養う（第5号）。	pp.96-103
Reading 2 The Story of Wangari Maathai	環境の保全に尽くした人物の伝記を読み、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う（第4号）。	pp.106-110

Let's Communicate 1~3	特定の場面でなされる対話を通して、円滑にコミュニケーションを図るための豊かな情操と道徳心を培うことを目指した（第1号）。	pp.30-31 pp.68-69 pp.86-87
英語のしくみ 1~4	日本語と異なる英語の文構造を系統的に学ぶことを通して、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことを目指した（第1号）。	pp.32-33 pp.50-51 pp.70-71 pp.104-105

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 学習の動機づけを工夫

各課の導入においては、内容スキーマを活性化させるための音声的導入としてWarm-Up Listeningの活動を配置し、興味・動機づけを図った。また、本文の題材に興味をもって学習に取り組めるよう、本文に入る前に日本語による導入文を設けた。

(2) 到達目標を明示

各課の冒頭に「この課の目標」を明確に示し、生徒が目標をもって学習に取り組むことができるように工夫した。

(3) 中学校や高等学校における学習内容を繰り返し、定着を図る工夫

中学校における英語の学習の基礎の上に、高校での学習事項を無理なく配列した。特に中学校における学習事項を繰り返して学習し、定着が図れるように構成した。

例えば、本書のはじめに、アルファベット、発音・イントネーション、教室英語など、中学校における英語の基礎を復習するページを設けたり、本書全体を通して、重要な語彙・表現や例文についても、本文、KEY POINT, DRILL, PRACTICE, ACTIVITYなどで繰り返し触れたりして、使いながら定着が図れる構成にした。

(4) 英語の基本的な構造を理解するために

コミュニケーションを支えるための基礎的な文法事項・文構造を身につけるために、英文の構造を系統的に理解するコーナーを4箇所配置した。ここでは、無味乾燥な例文の羅列で英文の構造を整理するのではなく、本課の登場人物や題材内容に関する例文を使って英文の構造が楽しく、わかりやすく学べるように工夫した。

(5) 言語の使用場面への配慮

「コミュニケーション英語Ⅰ」の目標を達成するのにふさわしい言語の使用場面として、本課以外に、特有の表現が使われる以下の3場面を取り上げた。

Let's Communicate 1 電話をかけよう

Let's Communicate 2 買い物をしよう

Let's Communicate 3 道案内をしよう

(6) 発音表記の工夫

新出語と固有名詞には、傍注及び脚注に発音記号とカタカナ表記を併記して示した。カタカナ表記は英語の発音に不慣れな生徒への学習負担軽減と理解補助のための配慮であり、英語の発音を再現するための手がかりとして付けた。また、カタカナ表記自体が複雑になり、生徒が理解するのに負担とならない方式を採用した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-163	高等学校	外国語	コミュニケーション 英語 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
9 開隆堂	コ I 331	Revised ENGLISH NOW English Communication I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本教科書は、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う」という学習指導要領外国語科「コミュニケーション英語 I」の目標を 3 単位の授業時数で無理なく実現するために、特に以下のような点を工夫して編修し、特色とした。

(1) 編修上特に意を用いた点

- a. 中学校における英語の学習を踏まえ、「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う」ことを編修上の最大の基本方針とした。
- b. 各課冒頭に「この課の目標」を明示し、生徒が目標を持って学習に取り組めるよう工夫した。
- c. 中学校における基礎的な学習内容を踏まえつつ、4 技能の総合的な育成が図れるようにした。
- d. 言語の使用場面は、「コミュニケーション英語 I」の目的を達成するのにふさわしいものを取り上げ、有機的に組み合わせて活用できるように独自のページを設けた。また、言語活動を設定する際には、取り組みやすいペアワークやグループワークなどを通して、現実場面に即したコミュニケーション能力が集中的に養えるように工夫した。
- e. 学習者には学ぶ過程が、指導者には教える手順が見て取れるよう、わかりやすい紙面構成とし、「コミュニケーション英語 I」の目標が無理なく達成できるように工夫した。

(2) 特色（各課の構成など）

a. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養うために全体を以下のような構成とした。

ア. **Let's Start・中学校の復習**：アルファベットや文の要素など、中学校で学習した英語の基礎を復習し、高等学校での学習に無理なく接続するためのコーナー。

イ. **Lesson**：コミュニケーション能力を総合的に育成するための通常課。

ウ. **Let's Communicate**：具体的な言語の使用場面を設定して行うコミュニケーション活動のコーナー。

エ. **英語のしくみ**：コミュニケーションを支えるための英語の基本的な構造を学ぶコーナー。

b. 通常課各課は以下のような構成とした。

ア. **Warm-Up**：題材に対しての興味・関心を喚起するため、題材内容に関連した英語を聞いて質問に答える活動。

イ. **本文**：新出事項を含んだ英文を読んで、その理解と定着を図るための本文。

ウ. **本文の Q&A**：本文に対応した英問英答。内容を確認しながら読み進めることで、本文理解を確実なものにするとともに、授業の中で英語による適切な言語活動が行えるように配慮した。

エ. **発音**：本文に出てくる語句、文を使って英語らしく発音するための練習。

オ. **COMPREHENSION**：本文の内容理解を確認しながら本文の要約文を完成させる作業。

カ. **KEY POINT**：本文に含まれる文構造・文法事項についての例文と簡潔な説明。

キ. **DRILL**：KEY POINT の理解を確かめる基本的なドリル。

ク. **PRACTICE**：基礎練習，リスニング，対話練習の順で KEY POINT の文構造・文法事項を無理なく身につける練習問題。次の ACTIVITY を行いやすい構成とした。

ケ. **ACTIVITY**：学習した文構造・文法事項を運用して行う言語活動。

上記のように、学習指導要領外国語科「コミュニケーション英語 I」の目標と内容が十分達成できるような構成・内容とするべく特段の工夫をした。

2. 対照表

コミュニケーション英語 I の標準単位数は 3 単位（年間 105 時間）であることから、本教科書は週 3 時間の授業時数を想定して編修した。

なお、学校行事などのため年間 105 時間の 8 割程度が実質可能授業時数であると想定し、85 時間程度で本教科書の学習が終えられるよう、全体の分量に配慮した。

以下、具体的に配當時数の詳細を示す。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
Let's Start 1～3	第2款-第2-2-(2)-ア／第2款-第2-3-(2)／第3款-1-場面 b 働き abce／第3款-3-ウ／第3款-4／第4款-2-(4)	pp.4-9	2
中学校の復習 ①～②	第2款-第2-3-(2)／第3款-2-イ／第4款-2-(4)	pp.10-14	2
辞書の使い方	第4款-2-(3)	p.15	
Lesson 1 “Hello, Everyone.”	第2款-第2-2-(1)-アイエ／第2款-第2-2-(2)-ア／第3款-1-場面 b 働き ce／第3款-2-イ／第3款-2-ウ-(エ)／第3款-3-イウ／第4款-2-(2) (4)	pp.16-21	4
Lesson 2 Text Messages	第2款-第2-2-(1)-アイエ／第2款-第2-2-(2)-ア／第3款-1-場面 ac 働き e／第3款-2-ウ-(カ)／第3款-3-アイウ／第3款-4／第4款-2-(1)-アイウ／第4款-2-(2) (4)	pp.22-29	5
Let's Communicate 1 電話をかけよう	第3款-1-場面 a 働き ae／第3款-2-ア-(イ)／第3款-4／第4款-2-(2)(4)	pp.30-31	2
英語のしくみ 1 文の構造① (SV/SVC/SVO)	第3款-2-イ／第4款-2-(2)	pp.32-33	2
Lesson 3 What Are Good Snacks?	第2款-第2-2-(1)-アイウエ／第2款-第2-2-(2)-ウ／第2款-第2-3-(1)／第3款-1-場面 ab 働き bce／第3款-2-イ／第3款-3-イウ／第3款-4／第4款-2-(1)-イ／第4款-2-(2) (4)	pp.34-41	5
Lesson 4 A Friendly Hug	第2款-第2-2-(1)-アイウ／第2款-第2-2-(2)-イウ／第3款-1-場面 ab 働き abcde／第3款-2-ア-(イ)／第3款-2-ウ-(ア)／第3款-3-イウ／第3款-4／第4款-2-(1)-アイウ／第4款-2-(2) (4)	pp.42-49	6
英語のしくみ 2 句と節	第4款-2-(2)	pp.50-51	2
Lesson 5 <i>Kawaii</i>	第2款-第2-2-(1)-アイウエ／第2款-第2-2-(2)-アウ／第2款-第2-3-(1)／第3款-1-場面 a 働き ace／第3款-2-イ／第3款-3-イウ／第3款-4／第4款-2-(1)-アイウ／第4款-2-(2) (4)	pp.52-59	6

Lesson 6 <i>Sempai and Kohai</i>	第2款-第2-2-(1)-アイウエ／第2款-第2-2-(2)-ア／第2款-第2-3-(1)／第3款-1-場面 b 働き acd ／第3款-2-イ／第3款-2-ウ-(ウ)(ク)／第3款-3-イ ウ／第3款-4／第4款-2-(1)-アイエ／第4款 -2-(2)(4)	pp.60-67	6
Let's Communicate 2 買い物しよう	第3款-1-場面 a 働き bcd／第3款-4／第4款 -2-(2)(4)	pp.68-69	2
英語のしくみ 3 文の構造② (SVOO/SVOC)	第3款-2-イ	pp.70-71	2
Reading 1 The Cracked Pot?	第2款-第2-2-(1)-イウ／第2款-第2-2-(2)-アイ／ 第3款-1-働き b／第3款-2-ア-(イ)／第3款-4／第 4款-2-(1)-アイエ／第4款-2-(2) (4)	pp.72-76	6
スラッシュリーディング	第2款-第2-2-(1)-イ／第2款-第2-2-(2)-イ	p.77	1
Lesson 7 <i>Mago-no-Mise</i>	第2款-第2-2-(1)-アイウエ／第2款-第2-2-(2)- ア／第2款-第2-3-(1)／第3款-1-場面 ab 働き abcd／第3款-3-イウ／第3款-4／第4款-2-(1)- イエ／第4款-2-(2) (4)	pp.78-85	7
Let's Communicate 3 道案内しよう	第2款-第2-(1)ア／第3款-1-場面 a 働き bc／第 3款-4／第4款-2-(2)(4)	pp.86-87	2
Lesson 8 <i>Marathon of Hope</i>	第2款-第2-2-(1)-アイウエ／第2款-第2-2-(2)- ア／第2款-第2-3-(1)／第3款-1-場面 b 働き abce／第3款-2-ウ-(イ)(ク)／第3款-3-イウ／第3 款-4／第4款-2-(1)-アウエ／第4款-2-(2) (4)	pp.88-95	7
Lesson 9 <i>Mottainai</i>	第2款-第2-2-(1)-アイウエ／第2款-第2-2-(2)- ア／第2款-第2-3-(1)／第3款-1-場面 b 働き abcd／第3款-2-ウ-(ウ)(ク)／第3款-3-イウ／第3 款-4／第4款-2-(1)-アイウエ／第4款-2-(2) (4)	pp.96-103	6
英語のしくみ 4 名詞を詳しく説明する	第3款-2-ウ-(イ)(ク)／第4款-2-(2)	pp.104-105	2
Reading 2 The Story of Wangari Maathai	第2款-第2-2-(1)-イウエ／第2款-第2-2-(2)-アイ ／第3款-1-場面 c／第3款-2-ア-(イ)／第3款-4／ 第4款-2-(1)-アイウエ／第4款-2-(2) (4)	pp.106-110	7
Let's Talk about Your Wishes.	第3款-1-働き bd／第3款-2-ウ-(キ)／第4款-2-(2)	p.111	1
		計	85

教科書全体の英語	教科書で使用されている英文はすべて、現代の標準的な英語を使用するよう配慮した（第 3 款-3-ア）。	全課	—
新出語	語については、中学校で共通に学習したと見なした語を 661 語と設定し、406 語の新語を加えた（第 3 款-2-ア-(イ)-a）。	全課	—